



## 1 第1回土産品モニター会議 「信長評定」を開催しました

信長公450プロジェクトのイベントとして、去る7月6日に、岐阜市立女子短期大学と連携して『第1回土産品モニター会議「信長評定」』を開催しました。モニター会議では、20名の家臣役を務めた学生が信長公に土産品を献上する8品目を真剣に評定し、活発な意見が出されました。



今後も、10月と11月に第2回、第3回を予定しています。本事業を通して、市内で販売している**今の土産品を大切に活用**して話題作りを行うとともに、商品のブラッシュアップに繋がっていきます。

## 2 織田信長公に関連する観光土産品 を販売しています

昨年度開発した信長公に関連する観光土産品(8商品)が、市内の**マーサ21 催しもの会場(1階)**の特設コーナーにおいて、販売されています。

土産に活用していただければ幸いです。



(開発商品名)

- ◇天下布武 枝豆焼まんじゅう
- ◇天下布武 信長うつけ力もち
- ◇信長の翠
- ◇信長うつけ黒ごまういる
- ◇信長楽市ひとくち柿ういる
- ◇信長の郷 美濃からの贈り物
- ◇岐阜 織田信長 あゆるラーメン
- ◇信長戦勝調味箱

## 3 日本遺産サミット in 岐阜にて観光PR を行いました

去る7月1日に、長良川国際会議場で日本遺産サミット in 岐阜が開催されました。昨年度、日本遺産第1号として認定を受けた**「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜**として、日本遺産認定団体ブースに出展し、信長公450プロジェクトのPRを行いました。



ブースには、馳文部科学大臣も訪れ、2017年にプロジェクトで公開予定の信長公居館の**バーチャルリアリティ映像**の一部に興味深くご覧いただきました。

## 4 織田信長公居館跡の発掘調査を 実施しています

金華山麓は信長公が館を構えた地として知られていますが、館の姿や配置など居館の多くの部分は**まだ謎のまま**です。

岐阜市では、信長公居館跡の**建物位置や構造を調べる発掘調査**を行っており、夏休み期間中(土日含む)も、雨天時を除き実施します。岐阜公園北側に設けた発掘調査案内所で調査結果を紹介していますので、是非足を延ばされてはいかがでしょうか。信長公450プロジェクトでは、発掘調査の結果を基に**バーチャルリアリティで再現した居館の映像**を、**2017年に公開**する予定です。



## 5 「ケータイ国盗り合戦」**「織田信長 岐阜市コース」**開催中!

信長公450プロジェクトのイベントとして、株式会社マピオンとタイアップし、モバイル端末の位置情報機能を利用したサービス**「ケータイ国盗り合戦『夏の陣』**において、市内の**信長公ゆかりのスポット**をめぐるスタンプラリー**「織田信長 岐阜市コース」**を特別開催しています。

期間は、**平成28年10月25日(火)15時**までの期間限定で、スポットを攻略すると、ゲーム内の限定デジタルアイテムをゲットすることができます。

◆詳細は信長公450プロジェクトホームページをご覧ください。HP: <http://www.nobunaga450.jp/>

ケータイ<sup>®</sup>  
国盗り合戦



## 6

## 「ぎふ信長楽市ブランド化事業」 推進中です

信長公は、岐阜に入城して間もなく、戦乱で荒廃した町を復興するために**楽市楽座政策**を打ち出し、経済活性化を図りました。楽市楽座とは、これまで特定の商人のみが持っていた独占販売権や不入権などの既得権を撤廃し、座を解散させたもので、誰もが自由に商売ができるという革新的な市場システムでした。市内の円徳寺には、その際の楽市楽座制札が残されています。

信長公 450 プロジェクトでは、信長公の意思を受け継ぎ、市内の商店街やさまざまな楽市イベントに一体感を持たせ、楽市のまち岐阜市としてのブランド向上を図るため、「**ぎふ信長楽市ブランド化事業**」を推進していきます。現在、その中の取り組みの一つとして、「ぎふ信長楽市」のシンボルマークを募集しています。**募集期間は 8 月 15 日（月）（必着）**です。応募方法など詳しくは信長公 450 プロジェクトホームページをご覧ください。

また、シンボルマークの発表に合わせ、今年 11 月には「**ぎふ信長楽市ガイドブック**」を発刊する予定です。

## 7

## 信長公おもてなし武将隊を募集 します

信長公 450 プロジェクトでは、プロジェクトの PR や盛り上げにご協力いただける「**信長公おもてなし武将隊**」を募集します。

主に岐阜市内で、市民や観光客の皆さまを対象に観光満足度向上に資する活動を定期的実施していると認められる 2 名以上で構成された武将隊で、戦国時代に実在した岐阜市又は信長公ゆかりの武将に成りきり、甲冑など戦国時代を彷彿させる衣装を着用し活動するなど歴史観光都市・岐阜市の発信に寄与する活動を行っていることなどが条件です。詳しくは信長公 450 プロジェクトのホームページ等をご覧ください。



趣旨にご賛同いただける**武将隊の皆さまのご応募をお待ちしています。**

## 8

## スポンサー・広告協賛を募集します

信長公 450 プロジェクトでは、今年実施を予定しているプレ事業も含め、様々な周年事業の開催を計画し、「**信長公ゆかりのまち・岐阜市**」を広く国内外に発信していきます。

本事業の実施に当たっては、実行委員会をはじめとする関係団体が一体となり、プロジェクトの成功に向け一丸となって取り組んでいくことはもちろん、市民の皆さま、団体・企業等の皆さまからの多方面にわたるご理解とご支援が不可欠です。

つきましては、**スポンサー・広告協賛にご協力いただける企業・個人の皆さまを募集**します。各種協賛メニュー等の詳細は、岐阜市信長公 450 プロジェクトホームページ掲載の募集概要をご覧ください。本事業の公益的な趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



## 9

## 今後のイベント予定

10月1日(土)	周年事業ガイドブック発行	
10月1日(土)～2日(日)	第60回 ぎふ信長まつり	中心市街地一帯
10月7日(金)～13日(木)	(仮称)岐阜と信長観光物産展	都内
10月10日(月・祝)	信長学フォーラム in 東京	都内

一方、近隣の大名や一向宗徒による信長包囲網に悩まされた時代でもありました。そこで、楽市楽座、流通網整備、堺の直轄化などにより商業を活性化し、他国の情報を得るとともに、堺の商人を通じて海外から火薬を仕入れ、農民中心だった兵士を専属の兵士団として整備(兵農分離)するなど、他に先駆けた改革で、包囲網を破っていきます。



織田信長公が岐阜に入城したのが永禄10年(1567年)の8月だったことは、ご存知でしょうか。今から449年前、信長公33歳の夏の出来事です。信長公は天正4年(1576年)2月に安土に移りますが、それまで足掛け約10年、自ら名付けた岐阜の地に本拠を構え、金華山麓におもてなしの舞台ともなる居館を整備します。

信長公が岐阜時代に行ったことは多岐にわたり、楽市令を発令、領国内の関所の廃止、道路・橋の整備などにより、商業振興を図るとともに、足利将軍義昭を奉じての上洛で畿内に勢力を拡大し、天下統一に突き進んだ時代でした。天下布武印も岐阜時代に使い始めています。

449年前の夏

岐阜市信長公450プロジェクト実行委員会事務局

(岐阜市企画部信長公450プロジェクト推進課内)

TEL: 058-213-0450 HP: <http://nobunaga450.jp/>

